

自由記述 1 小学校 4 年生

- ・昔の言葉などが覚えられてとても好き。
- ・俳句や詩を覚えられると達成感があるから好き。暗記できると嬉しい。
- ・校長検定を合格できて嬉しかった。
- ・短歌のリズムがよい。
- ・いろいろな日本や世田谷の伝統文化、昔のことを知ったり学べたりすることができ
るからよい。日本の文化がとても深いことが分かる。
- ・昔の人の生活、昔の人のことが分かることがよいと思います。
- ・漢字の作り方（形など）が分かるのが楽しかった。辞典で調べるのが楽しかった。
- ・漢文を暗唱するのがおもしろかった。
- ・詩の作者の気持ちや思いを調べて紙にまとめるのが好きです。
- ・百人一首の言葉や短歌がリズムをつかめた。5・7・5の時のリズムが好き。
- ・昔の人が思ったことや考えたこと、気持ちがうたに表現されていて、その人の気
持ちは少し分かるような気がするから百人一首の授業が好きです。
- ・日本語は人に意味を伝える大切な役割なのかなと思った。
- ・昔の方々が書いた詩や俳句にはどのような思いがこめられているのか、どうして
この詩を書いたのかななどを想像するのが好き。
- ・日本語は、詩や俳句をよんでいると心がやすらかになります。
- ・ふだんなかなか調べられないことが勉強できるのはよいと思う。
- ・日本語の授業で漢字の歴史にとっても興味をもち、いろいろな本を読むことにつな
がりました。
- ・日本語は、自由に考えることができるから、人それぞれ考えたことを言うのがお
もしろい。
- ・日本語の授業では、他の教科に比べて、情景を想像することができるところが特
に好きです。
- ・私の心に残っている内容は言葉の意味のことです。例えば、馬が合うという言葉
の意味を教えてもらうのがなんだか少し楽しかったです。
- ・「春はあけぼの」の暗記が一番だったので嬉しかったです。
- ・日本語のページの写真がすごくきれいで好きです。
- ・グループで音読をして発表するのも好きです。
- ・「竹」という詩がリズムがよくておもしろいと思った。
- ・話を聞いているだけだとつまらないからノートなどがほしい。
- ・いろいろな行事の意味をもっと調べたい。
- ・日本語の授業で、いちいち詩の意味を調べるのが少しめんどうだし、普段の生活
には少しは役に立つと思うけど、やはり日本語は私は少し苦手だと思う。

- ・日本語は、昔のことを知ることができるけれど、私は昔のことや詩は興味がないというかきらいだから、つまらない。でも、初めて知ることや友達の意見を知ることができるということはすごくある。
- ・その場を思い浮かべやすいから李白の詩は好き。でも、国語で詩を書いたり、社会で歴史を少し知ることができるから、なくてもよいと思う。
- ・日本語の授業で俳句をリズムよく響きを感じたりしながら読むのが好きです。
- ・いろいろな言葉を知ることができるので好きです。特に、「子曰く」は、いろいろなためになることが書いてあるので好きです。
- ・短歌や俳句をよむと四季を感じられ、もうこんな季節なんだなと実感できるので私は日本語が好きです。
- ・詩や俳句を作るのが好き。
- ・楽しいけれど、深く考えたりするのは苦手だからあまり楽しいと思わない。
- ・昔の詩は分からない言葉が多いけれど、よんでいくうちになんとなくだけ意味が分かってくるのが楽しいです。
- ・昔の言葉がでてきても、先生が教えてくれるし、どういう意味かをみんなで話し合うことができておもしろいです。
- ・漢詩や古文など、意味が少し分かりづらいものの意味をみんなで考えるのが好き。
- ・日本語は楽しいけどむずかしいです。
- ・どうでもよさそうなことを勉強するからいや。
- ・眠くなるのであまり好きじゃないです。
- ・生活の役に立たないところ。
- ・詩や俳句などは暗唱するだけでなどでつまらない。暗唱するのが苦手。
- ・日本の歴史やいろいろなことが分かる授業だけれど、生活にはいらないと少し思う。
- ・詩などの意味が分からない。漢詩が難しい。覚えるのが難しい。
- ・俳句や漢詩はきらい。昔の言葉が分かりにくいから授業の内容が難しい。
- ・感想などを書かされるのがきらい。
- ・前で発表するのは好きではない。
- ・みんなで議論するのはけっこうめんどうなので、少し好きではない。
- ・自分の考えや気持ちを表現したり発表するのが苦手だから日本語は苦手だ。
- ・朝の詩を読んだり、家でもお父さんたちと練習した。
- ・短歌のことについて、お母さんと話し合いました。
- ・おじいちゃんに俳句や詩を言える。
- ・難しい言葉が出てきたら調べて意味が分かる。
- ・慣用句などを調べた。百人一首や俳句作り、世田谷かるたが楽しかった。
- ・ヤシの実、雨ニモマケズ、江南の春、夏は来ぬなどが心に残っている。

自由記述2 小学校6年生

- ・古典鑑賞教室で「附子」を見たこと。実際に見る方が分かりやすい。
- ・暗唱できて楽しい。暗唱や音読が好き。
- ・百人一首を頑張って覚えて、カルタ大会をやるのが楽しい。
- ・分からない言葉があると、時々調べたりしている。筆者（詩などを作っている人）の気持ちを考えて読むことが大切だと思う。
- ・日本語では、昔の人の思いなどがかかれています、それを見つけるのが、すごく好きです。
- ・自分の分からないことを自分で調べられるようになった。
- ・日本人として「日本語」の授業で日本の文化を知る事は大切だと思う。
- ・日本の文化などは、ふだん学ぼうと思わないけど、日本語の授業があると意外とおもしろい時があるから、日本語の授業はけっこう大切だと思う。
- ・日本語の教科書を見てみると、おもしろい詩や俳句があったり、きれいなものがあるから楽しい。
- ・日本語は初めて知る事が多いので、もっといろいろなことを知りたいです。
- ・百人一首や、暗記してシールをもらうなどの取組がとても楽しい。
- ・その授業にかかわっている他のことなども教えてくれて楽しかった。
- ・中学でやることを今やっていて、他の区より優越感があるように感じる。
- ・いろいろな詩を読んで、意味を想像したりするのが楽しくて好き。
- ・日本語は日本人にとってやらなくてはならない科目だと思う。ただ、日本人の中には、日本語にはふさわしくない言葉を使っている人がいるので、私はもっと日本語をより多くの人に伝えていった方がいいと思う。
- ・日本の伝統や文化のよさを外国の人にも伝えたい。
- ・日本語という、形はないけれど受け継がれている、受け継いでいく文化をこのように楽しみながら学習することができるのはすごいことであり、ありがたいことだと思う。
- ・毎回はじめての表現のしかたなどがでてきておもしろい。
- ・日本語の授業で学んだことがテレビとかにでてると「私これ知っているな」と少し物知りになった感じがする。
- ・分からない昔の言葉の説明がちゃんとのっているのでよい。
- ・いろいろな筆者の伝えたいことの文章をじっくり読むことがおもしろい。
- ・昔の人の思いや考えを日本語の授業を通して知る事ができておもしろいと思う。
- ・自分の思っていることを長い時間かけてゆっくりと書くことができるのが好き。
- ・「日本語」という教科は、日本について知る事ができる好きな教科です。日本について知る事ができると、「日本人である」と胸を張って言うことができたり、日本の文化を外国の人にも伝えたりすることができたりするのでよいと思いました。
- ・「日本語」の授業は、教科書にもとづきながらも、タブレットで自ら考えることができ、とてもよいと思います。
- ・日本語の詩を読んで、その風景を思い浮かべることが楽しい。
- ・俳句や詩をつくるのがとても楽しい。また、うまくできると嬉しい。

- ・茶道を学んだとき、何気なくやっていた茶道の歴史を知って、自分が茶道をやっていることに誇りをもてるようになりました。他の人にも茶道についてたくさん知ってほしいと思います。
- ・日本の昔の人がつくった俳句に日本の美しさが表れていると思っている。また、中国人と日本人のつくった作品は全然雰囲気が違うので文化の違いも感じられる。
- ・日本語は自分の意見を発表したり、相手の意見を聞けるので楽しいのですが、音読したり覚えたりすることが何の役に立つのかよく分からないと思います。
- ・色々な文化や歴史を調べて楽しい。また、調べることでいろいろ知ることができる。ふだんの生活に関心を持ちながら色々なことを知ることができる。
- ・人形浄瑠璃などを通して、自分の好きなものが見つかった。
- ・授業の好きなところは、すぐに新しい言葉に出会えることです。
- ・好きなところは、自分の考えを深められて発想を豊かにしてくれるところです。嫌いなところは、海外のことを意味が分からなくても覚えることです。
- ・日本語は自分の考えや思ったことをいろいろな表現で自由に伝えることができるのは好きです。たまにある調べ学習や分からないところを調べるのは嫌いです。
- ・短歌や俳句を画用紙に書き、絵を描くことで、どんな風景なのか想像して、暗記しやすくてできた。このように工夫してやると成果が出るということを知れた。日本語は今まで知らなかったことをたくさん知れるよい教科だと思う。
- ・私が、日本語の授業で好きなところは、自分だけではなく他の人たちの意見や、同じ詩を読んでいても自分とは全く違う考えをもっているということを知ることができるのが好きです。
- ・俳句や短歌では意味がなかなか理解できないが、リズムを感じ取るのは好きで、つまり、考えるよりも読む方が日本語の授業ではよい。今までで一番好きなのは、平家物語の「祇園精舎」です。やはりそこでも読む方が好きでした。
- ・漢詩は難しかった。
- ・発表するのが苦手。読んで感想を書くのが嫌い。暗記するのが嫌い。
- ・授業の嫌いなところは、昔の言葉がつかわれている長い文章の様子などを絵に描くこと。
- ・よく分からない言い方が嫌い。
- ・日本語は暗記したところでいつ役に立つのかが分からない。大人になると日本の文化に触れなくなるので意味ないと思う。
- ・今、詩を勉強しても、将来は忘れていると思う。
- ・他の授業よりも自分の国の文化や昔のことを知る事ができるが、それまでの理解が難しいと感じる。
- ・日本語の授業では、他の教科に比べて自分の意見を書くので好きではないです。
- ・俳句や詩をつくるのがめんどろ。生活に必要ないと思う。
- ・日本語の授業で学習することは、国語や社会の時間にできると思う。あまり役に立つこともないし、国算理社の方が大切だと思いました。
- ・日本語の授業はつまらないし、眠くなるから嫌だけれど、狂言を見に行ったり、いろいろな文や俳句をよむことで日本の今までの文化を知る事ができるのはよいと思う。でも、もう少し、教科書や授業の内容をおもしろくしてほしいと思う。

自由記述3 中学校2年生

- ・日本の文化や歴史などを知るのは楽しくて好きだけど、表現とかはあまり好きではない。
- ・暗記するのは好きだけど、皆で議論するのは好きではない。
- ・敬語を教えてもらったのはよかった。
- ・写真を見て言葉や情景を考えるのは好きです。
- ・好きなことをテーマにして調べるレポートでは、発表するのが嫌だったけど、聞くのは楽しかったです。人の意見を聞いたのでとてもよかったと思います。
- ・普段は考えたこともないことを考えさせられるなど思う。
- ・日本語の授業は、自分が生きていくうえで大切だったり、重要なことを知る事ができるので、とてもよい機会だと思います。また、友達と話し合うことによって、より考えが深まると思いました。
- ・答えが一つとは限らないところがよいと思う。最後まで、深く考え、自分の意見を発表することができる。
- ・日本語は、他の教科とは違い、見方を変えてみたりして、答えを探しに行くのがおもしろいと思う。いろいろな考え方をするので、いつも新たな発見ができ、そこが私は好きだ。
- ・日本語の授業で論破し合った時は、とても楽しかったです。理由は、相手との頭脳戦だからです。もしこれで勝ったら嬉しいし、自分はこれほどできると自分の力が理解できるからです。逆に、負けたりしたら悲しいし、自分に足りないところが分かると、そこを改善しようと思います。なので、自分の力を理解できる授業はすばらしいと思います。
- ・俳句や詩の授業などで、日本の四季の移り変わりにふれられるところが好きです。
- ・班で話すだけでなく、協力したり頭を使うことが楽しいと思った。
- ・特に成績に入ることもないのに、ゆとりをもって楽に受けることができる教科なので意外と好きだと思っています。また、コミュニケーションが苦手なので、とてもよい機会だと思います。これからも頑張りたいです。
- ・小学校の時に習った、「子曰く…」の言葉が好き。「少年老いやすく」もなるほどなあと考えた。
- ・小学校で習った漢詩や論語などが好きで、中学校でもやりたかったです。
- ・意見をみんなの前で発表するのは嫌いだけど、日本の伝統や社会を知ることができるので日常生活で役立つ。
- ・日本語はとても楽しい！自分の表現が自由にできるから。だけど調べるところは嫌いだ。
- ・考えると言うことがきたえられた。
- ・他の授業とは違う頭の使い方ができるのがよい。

- ・日本の伝統工芸や俳句、詩などを学んだり、友達とグループを作り、話し合ったりすることが心に残っている。
- ・ゴミ捨て場についてルールを作ったり、考えて議論したりするのが楽しかった。
- ・日本語の授業では自分の意見を相手にしっかりと伝えることを学びました。その授業を通して、相手に自分の気持ちを失礼のないように発言することを心がけるようになりました。
- ・私は、正直、日本語はやる必要がないのではないかと昔は思っていたのですが、中学に入って授業を進めていくうちに、日本の文化や社会について、普段あまり興味をもつことのできないようなことについて、深く考えるよい機会になっていると思います。また、みんなで話し合い、互いの意見を言い合うというのもこれから先のことを考えるとよいのではないかと思います。
- ・対話の基礎について、実際に友達と実践するアクティビティを取り入れることで、とても分かりやすかったし、楽しかった。
- ・好きなところは、知らなかったことを知ることができたり、お互い意見が言えること。嫌いなところは、難しい言葉などがあり、分かりにくいこと。
- ・昔の話は現代文にすればおもしろい。
- ・今まで生きてきた中で、日本語とか全く役に立っていないから、もっと実用的な授業に変えてもらいたい。
- ・本当にこれからの役に立つことなのかと思うようなことを学ぶことがあるから、学ぶならもっと身近なことを学びたい。
- ・みんなで議論するのが、ややめんどくさいと思った。
- ・自分の意見をみんなに発表しなければいけないところが嫌い。
- ・出てくる言葉が難しく、よく分からない。昔の言葉ばかりでありあまり楽しくない。
- ・すごく難しいところから物事を考えるのであまり日本語は好きではないです。
- ・詩などを書いたり暗記するところと説明するのが多いから嫌いです。
- ・深く考えることが難しい。
- ・何のためにあるか分からない。
- ・あまり楽しくはないが、勉強になると思う。
- ・日本語の授業は、他の授業に比べて、先生や教科書が何を伝えようとしているのかが分かりづらい。
- ・点数で評価されないことは嬉しいけれど、日本語の授業で自分に何が身に付いているのかは分からない。
- ・日本語は生活しているだけで身に付くのであまり必要ないと思う。
- ・小学校と中学校でやっている内容が違うので驚いた。
- ・話の内容がつまらないものが多いので、授業はあまりおもしろくない。
- ・話を聞いているだけでつまらない。
- ・あまりやっても意味がないと思う。それだったら他教科の知識を増やしたい。

自由記述4 中学校3年生

- ・文化の違いを知る事はおもしろかったです。
- ・意見を書くことが多い日本語はつまらないけど、ゆかたを着たりできる授業は楽しい。
- ・知らないことを知れて嬉しい。詩や漢詩を読むことが好きなのでもっとやりたい。
- ・日本語の授業は自分の意見を気軽に発言できる。
- ・成績など関係ないから、みんなのびのび受けることができるのが好きです。
- ・ゆかたの着付け教室や論語の暗記などが印象に残ったことです。日本文化をくわしく知ることができるのが日本語の授業の好きなところですよ。
- ・着付けや華道、茶道など体験したりする授業は楽しい。
- ・哲学の「生きることについて考える」内容が興味深い内容だった。
- ・明確な答えがないので自分の思うことを素直に発表できるところが好き。
- ・日本の文化にふれることはよいことだと思います。
- ・他の人と意見を交流できるところが好きです。
- ・伝統や歴史を知ることができるから、まあまあ好きです。
- ・日本語の授業は知らないことが多いから好きです。
- ・2年生の頃にやった討論が楽しいし、高校でなど将来も使いそうだし、みんなの意見を知る事ができ、印象に残っている。
- ・昔の言葉はよく分からないけれど、俳句とかつくるのは楽しかったです。
- ・歌舞伎を実際に見に行ったことはとてもよかったです。
- ・日本語の授業では、クラスのみんなど話し合いが多く、自分の出した意見とは全く違う意見が出るのですごく聞いていておもしろい。歌舞伎を自分で調べて新聞をつくり、発表したのは楽しくよいと思う。
- ・他の教科より気楽に取り組むことができ、逆に自分の意見を気兼ねなく言うことができ自分をさらし出すことができる教科だと思います。
- ・受検で議論しなければならないときに役に立つと思うし、文章を読みといたり自分の意見をまとめるなどにはよい授業だと思う。
- ・物事に対して深く考えて、それを他人に発表したり他人の発表を聞いたりして納得のいくこと、いかないことを整理した上で新しい自分の考えをもてるのが楽しい。
- ・日本人がつくった詩などを、その人がどんな気持ちなのか考えたりするのが楽しくて好き。
- ・日常であまり考えないことについて深く考えることができるので、日本語の授業は人間的に成長できるよい機会だと思います。
- ・成績に入らないのでやる意味があるのかなと思うけれど、日常生活で習ったり知ったことが出てきたときは嬉しい。

- ・日本人として日本のことを知る事は当然のことであって、大人になって日本のことを説明できる人間になるために日本語の授業は必要だと思う。
- ・普段触れないようなことに関心をもてるよい機会だと思う。日本の文化について知ることにより自分の国を好きになれる。
- ・グローバル化において、自国のことを知っていなければいけないのでその意味では役に立っていると思う。
- ・たまに孔子の先生が言ったことが心にズサッとくる。
- ・日本語の授業で学んだことはすぐ近くの身のまわりにあることが多い。
- ・CM作成で、みんなで協力してできたのが楽しかった。
- ・教科書で漢文などを読むだけのときはつまらないが、みんなで意見を出し合うは楽しくて好きだ。
- ・日本語の授業で心に残った言葉があって、それを今も大切にしている。
- ・箸の使い方やマナーについて調べたときには新しい発見が多くあったためになりました。
- ・道徳的感性を磨ける。
- ・日本語は少し自由なところがあるから好きだ。
- ・先生ごとの教え方に分かりやすい、分かりにくいなどがある。
- ・一つ一つの問いについての時間が短かったりすると、すぐ発表しなければならぬので苦手意識を感じる。
- ・詩を読むのはいいが難しい。
- ・正直いらない。
- ・日本語の授業は知らないことも多いし、あまり得をしないから好きではない。
- ・昔の言葉などは知らないからつまらないと思う。
- ・今後、役に立つのかどうか分からない。
- ・深く考えることは嫌いです。文章を書くのが難しい。発表が嫌い。
- ・話し合いが好きではない。
- ・みんなで意見を出し合うのがめんどくさい。
- ・古文などは意味が分からないからつまらない。
- ・関心はあるが、少し分かりにくい。
- ・やっても意味がないと思う。古文なら国語、歴史なら社会で学ぶことができるから。
- ・日本語の授業のやる意味が分からない。
- ・正直国語の授業との違いが分かりません。なくてもいいと思います。
- ・総合のほうがよい。
- ・先生の話ばかりで眠くなる。
- ・日本語は道徳との違いがよく分かりません。
- ・授業はつまらない。もっと社会的知識を身に付けた方がよい。
- ・教養として必要なところもあるが、そうでないような場合が多いように感じる。

自由記述 5 小学校 管理職

- ・年間を通して、全学年の児童を対象に、中休みや昼休みの時間を使って校長に暗唱を聴いてもらう検定を実施している。
- ・美しい日本語週間中に、暗唱発表会を実施している。
- ・2学期末の保護者会前にミニ朗読発表会を実施している。
- ・1時間の授業の決まった流れをつくることができると授業を進めやすくなる。
- ・子どもたちの興味・関心を高めるような日本語の授業を実施するためには、十分な準備が必要である。授業準備・教材準備のサポートをしっかりとやっていく必要がある。
- ・教科「日本語」を通して、日本特有の文章表現に触れることにより、美しい言葉の響きを体験することは大変有用なことと感じる。日本人としてのアイデンティティを根付かせる意味もあるので大切な教科である。
- ・日本語のねらいにある通り、日本語の美しいリズムや言葉のもつ力の学習を通して感受性を高めることができる。
- ・論語については、全校朝会や学校便り等でも扱い、日本語のよさを伝えている。
- ・特に区外からの転入教員には、校内外における「日本語」指導を学ぶ場で研修することを、積極的に推奨してきている。
- ・「日本語」の授業を充実させるために、授業観察・事後指導に努めている。
- ・日本語の内容は、教員にとっても難しく、教材研究が重要である。それ故、教員の指導力の差が大きい。指導書に教材観等を載せていただくとありがたい。
- ・内容はすばらしいと思うので、続けるためにも、情報提供等を行い、指導しやすい教科に成長させてほしい。
- ・世田谷区に来て年数の浅い教員の中には、児童に考えさせること、文意を教えようとするなど難しく捉える傾向がみられる。とにかく日本語のもつ音の響きや美しさを味わわせるために、繰り返し何度も声に出して読むことを強く伝えている。児童が気付いたら自然に口ずさむような授業展開をめざしている。
- ・日本語指導資料集を上手に活用し、教員の負担を軽減するよう教員には伝えている。
- ・教科「日本語」そのものは価値があると感じる。1年生などはもっと、分かりやすく季節感や日本古来の伝統を感じられる題材があるのではないか。
- ・総合的な学習の時間が削られるのは課題であると考えている。
- ・3学期の授業観察を教科「日本語」とし、管理職が授業を観察し指導しています。
- ・ICTをうまく利用して準備をしっかりとしている教員の授業は児童が集中して取り組む姿がみられる。「日本語」の授業3年未満の教員が全体の半数をこえ、展開等について先輩から学ぶ機会をもうけている。

・指導内容について、中学校での最後に哲学や表現のように自身の生き方につながる学習はとてもよいと思う。日本文化については、社会科による歴史学習や国際理解の視点も合わせると6年生の段階で扱えると考え。高学年は知識にかかわる意欲や必然性等、リズムを楽しむだけでは、学習意欲につながりにくくなる時期と考える。

・日本語担当者が校内に教科「日本語」を広めるだけでなく、他地区から異動してきた教員が4、5月のうちに日本語リーダーなどの実際の授業を見る機会があるとよい。そういう点で、校内の教科「日本語」の担当者は、他地区からの異動者や若手教員でもよいように思う。

・単元配列については、季節や年中行事などに合わせるようにしている。

・指導教員自身が興味・関心があり、漢詩等の情景が分かるなどの感性が求められる教科であると考え。教員が漢詩・俳句等を読む時間が必要であり、教員自身の「ゆとり」が美しい日本語、豊かな心を育てることにつながると考える。

・「日本語」の当初のねらいはある程度達成されている。学力に結び付けたり、定着度を測ったりすることは、日本語のねらいとは異なるのではと感じる。

・着実に成果はあったと感じているが、国語やその他の教科との関係、系統性、発達段階との整合性など課題はあると思う。

・教科「日本語」は知的、心情面でもとても内容が豊かであるので、資料をより充実していくとよいと思う。1年生の漢文はやや難しい。

・子どもたちは、朗読や音読を楽しんでいる。内容の積み重ねがなくても授業に参加できるため、学習に苦手意識をもっている子どもも、すすんで参加することができる。

・「日本語」の授業を通して、児童は日本の四季や伝統文化を身近に感じることができるようになっている。

・漢詩など教材の意味理解がある程度は必要だと思うが、どの程度まで理解させるのか教員にとっては悩みである。

・「日本語」を通して、普段触れない学習をすることは大切だと思う。1時間1時間をきちんとやること、そして振り返ることが大切であると思う。教員の意識の差が成果の差になっていることが気になる。意識の向上に努めたい。

・全教科に加え「日本語」そして、外国語の授業が本格的に入る中で、教師たちの教材研究、授業準備の時間の確保や負担が気になりである。授業の質が低下してしまうことが一番の問題ではないかと考えている。

自由記述 6 中学校 管理職

- ・教材内容も幅広く、文化、伝統、生活、自然など日常や今後将来に生きてくるものであり評価できる。
- ・日本語の時間が、読書活動や学級運営の機会を少なくしている。教科書の内容と改訂すべきである。
- ・本校では、全教員が「哲学」「表現」「日本文化」の単元のうち、教材や自分の得意とする内容を担当し、授業を行っている。よって、授業内容においても、各教員が工夫して行っている場合が多い。ただ、教員の意識により、熱心に取り組む教員もいれば、それなりの授業や負担に思う教員もいる。
- ・各学年での準備の様子を観察し、ねらいについて確認したり、資料の提示、授業の展開について助言したりしている。
- ・体験的活動を充実させたい。
- ・目標やねらいはととてもすばらしく、育てたい力・資質の育成に大切な学習であることは理解し、教員にもそのように指導しているが、3年間で一周りするため、教材研究などは教員の負担となっている。
- ・担当を窓口として教材の準備や研修内容の伝達、指導資料の充実を図り、世田谷区での経験の浅い教員や負担感の強い教員への配慮に努めながら推進している。各校で使用している教材を知る、活用できる機会が更に充実するとよいと考える。
- ・中学校では、生徒・保護者のニーズはない。教員も自教科以外の指導を負担と思っている。「総合的な学習の時間」に実施すべき内容が十分に組み込まれていない面もある。良い点は、進学対策の面接（集団討論）に役立つことがある。
- ・本校では、特に第3学年の「日本文化」に関して生徒は楽しそうに一生懸命よく取り組んでいる。第1学年の「哲学」は少々難しいのではないかと思う。教員は皆しっかりと授業を行っているが、指導力に差があることが課題である。
- ・常識、教養のようなものに触れるよい機会と捉えている。これからの生き方において、多面的・多角的にもものを見つめ、考え、知る事につながる教科であると捉えている。教員にとっても、教科「日本語」にかかわり、本来生徒に身に付けさせたい力、育成すべき態度について理解を深める契機につながると捉えている。
- ・教科「日本語」で話し合う活動を重視しているため、生徒は表現力が豊かであり、他の教科指導でも生徒が比較的、主体的に取り組んでいると思います。
- ・日本語アドバイザーの模範授業への参加を今年度世田谷区に異動してきた教員に促した。その結果、大いに参考になったと感激していた。アドバイザーの活用が重要だと考える。

・基礎的な言語力が高い世田谷の生徒たちの言語力を高めるために優れたテキストがいくつかあり、それは素晴らしいと思う。しかし、授業者によってこの授業で育てたい力が具現化せず、活動のための活動になってしまうことがある。「ねらいの具体化」「ねらいと評価の一体化」を、他の教科同様研究していく必要があるが、他教科と違って指導者がいないので難しい現状がある。

・教科「日本語」のもつ理念は素晴らしいと思う。それをどう実践し、生徒に伝え、深く考えることができる授業展開にできるかが課題である。

・日本語の趣旨、ねらいは世田谷区が子どもたちに育てたい力に合致した非常に意義深いものであると思いますし、世田谷区が誇るべきものだと思います。教材については、今の生徒の実態や一単位時間で行うことを視野に入れた教材の検討等、一層精査をしていただければと思います。

・指導する内容に道徳的な要素が含まれたものが多いので、指導者側からすると道徳との区別がつきにくい教科だと思います。特に「表現」の部分は本人の感じ方にかかわるのでその思いが強いです。

・本校では3年生において日本語支援員に来ていただき「着付け指導」「茶道」「華道」を行っている。このような体験が全員できるということは有意義であると考え

る。

・区教委の他の取組や今日的な教育課題等との関連を踏まえての単元配列や教科の内容等についての検討が必要ではないか。

・学校には様々な教育活動が持ち込まれており、教育内容の精選が不可欠である。日本語の趣旨はよいが、総合的な学習の時間の充実の方が大切だと思う。

自由記述7 小学校 教員

- ・小林一茶の俳句では、好きな句を選ばせて、俳句を写し、挿し絵を入れさせている。また、漢詩は難しいので、情景を想像させて絵をかいたり、保護者に頼んで、中国語で発音したりしてもらっている。このように、低学年ではイメージ作りが大切だと考えている。
- ・短歌や俳句は、国語の授業でもなじみがあるが、漢詩や論語については、低学年児童には内容が難しく、指導の難しさを感じています。学校全体で、朗読に取り組んでいる。よいことだと思います。
- ・国語の内容と重なる部分が多く、扱いに困る。総合的な学習の時間が浅くなってしまっている。
- ・話し合ったり、考えを深めたりする活動は、どの教科でもできる。日本語では、逆にその文が何を伝えているのか、どのような時代背景なのか、作者がなぜそう感じたのかを難しく推測できないため、活発な話し合いにならない。音読や朗読を喜ぶのは「それならできる」と感じるからではないか。良い点は、文語的表現に触れられること、季節の行事や和歌、「百人一首」などになじめることであるが、担任や学校をあげての行事への取組の力で成り立っているのであり、全学年が通年で指導できるだけの内容とはいえない。
- ・小学校のうちに美しい日本語に触れるのはとてもよい機会になると思います。古文にくらべて、漢詩が多いように感じます。また、三省堂の教科書に載っている詩と同じものが載っているのも、違うものにした方がよいと思います。
- ・イメージをふくらませるため、文に合った写真がたくさんあると助かります。
- ・児童の実態に合っていないと感じるものがある。そのため、難しさを感じてしまう子がいる。
- ・低学年から暗唱カードに積極的に取り組んでいます。深い意味は分からなくても、リズムや響きに小さいうちから耳で覚えておくことはとてもよいと思います。
- ・注釈だけでは言葉が足りず、調べて補足説明をしています。児童にとって、もう少し分かりやすいと助かります。
- ・世田谷区独自の日本語をすばらしいと思います。教師自身も教材研究をしながら日本の伝統文化や日本語の美しい響きを学んでいます。
- ・単元配列が国語の教科書の発展として扱えるとよいと思う。復習や反復学習として扱うのもよいが、学年をまたがないほうがやりやすいと思う。(例：短歌「あかあかや」が日本語は1年生で、国語の教科書は2年生に掲載)
- ・音読を通して、子どもたちが日本語に慣れ親しむのはとてもよいことだと思います。ただ、国語にも詩や俳句、漢字の成り立ち等があるので精査してもよいと思います。
- ・暗唱することを児童は楽しんでいますが、ただ、それを中心に進めると考える力は育めません。
- ・国語や算数で発表の少ない児童が、情景を豊かに想像して発表してくれるときがあり、そのことが一番嬉しく感じている。

- ・入学してまだひらがなも習っていない時に漢詩を扱うのはどうかと思う。もう少し、言葉のリズムが楽しめるものや、語彙が広がるようなものを取り入れた方がよい。
- ・3年生で世田谷区の学習をするので、1年生の内容のように、世田谷区の昔話をもう少し取り入れてもよいと思う。子どもの発達段階に応じた教材の選択をお願いしたい。
- ・6年生の古典芸能鑑賞教室は、子どもにとって、とてもよい経験になる。社会科の授業とも結び付けやすい。
- ・15分×3回などでも扱えるようになるとよい。1時間でやるより、短歌（百人一首）などはモジュールで扱った方が効果的なのではないか？
- ・音の響きや美しさを楽しむと言っても、意味の分からない漢詩をもう少し減らして、子どもたちが親しみやすい詩や日本の昔の手遊び歌等を指導していく方がよいと思います。
- ・漢詩、詩などは難しいものも多く、子どもが字から想像したり、情景を思い浮かべたりすることに困難さを感じます。しかし、リズムのあるもの、枕草子、宮澤賢治、百人一首…は子どもが楽しみながら学んでいるように思います。特に、百人一首は日本の文化として扱うことができ、カルタ会を催すことができるのでありがたいです。日本の言葉についてこだわって学習できる時間が確保されていることは助かります。外国に行ったときに、日本文化を語れる子どもに育てたいです。
- ・調べ学習の配列が学年に合っているのか疑問です。
- ・リーダー研修の指導事例集や校務パソコンの映像資料など、かなり授業はやりやすくなっている。
- ・指導資料集をいただきありがたかったです。それまでは、どのような内容の短歌や漢詩なのか等、事前の教材研究が必要で大変でした。できれば、一人1冊欲しいと思いました。
- ・日本語の時間が年間35時間あり、総合的な学習の時間などが不足してしまっている現状に困っている。
- ・漢詩や俳句等も、児童はその意味を知りたい、学びたい実態がある。響きや美しさという面に目を向けることがなかなかできていない。
- ・作成したワークシートや教材などを教員間で共有することで、互いに勉強にもなり、負担も減っている。
- ・日本の伝統文化や古くから親しまれている論語、漢詩などを学ぶことにより、日本独特のよさや考え方の由来を知ることができ、興味深い。今後、日本の文化を学ぶという、オリパラ教育に生きてくると思われる。
- ・年間15時間ぐらいにしばってもよいと思う。
- ・「日本語の中身が、国語や道徳の教科書と重複することがあり、同じ教材で異なる目標をもって指導することに難しさを感じることもある。
- ・「方言」「尊敬語」など現在使う言葉についても取り上げて大切にしていこうという意識をもたせたい。

自由記述 8 中学校 教員

- ・学年で領域を分けるのではなく、3領域を3学年で学習の方が効果的ではないか。3年生に哲学を学ばせたり、1年生に表現を考えさせたりしたい。
- ・生徒の実態や学校行事等に合わせて内容を考えたり、単元配列を変えることで、より「日本語」の授業が生徒の生活に生かされ、ねらいにある力が身に付けられるように思う。
- ・学校、担当者の取り組み方、資料の充実さ、授業者の取り組み方で全く生徒の反応が異なります。自分の教科以外の授業計画はとても大変だと思いますが、それを楽しんでいると思って日本語の授業に取り組むと、生徒も楽しく授業に取り組めたと思います。
- ・「日本語」の教科書はよく工夫されていますが、大人が読んでも内容が少し難しいと感じます。
- ・生徒は、自分で考えたり、意見を述べたりすることが大切だということを実感している。その意味で、日本語を学ぶ意識は大きい。さらに他者の意見を聴くことは大切であり、楽しいことだということも自覚されている。言葉の大切さ、使いこなす難しさと楽しさを味わえる日本語の授業は、現代の子どもにとって非常に意味があると思うが、週に1時間ずつの配置ではなく、まとめどりのような形の方が効果があると思う。
- ・教科間の時数にアンバランスがあるのに、全員で「日本語」を担当するのは負担が大きい。
- ・日本について日本人として誇りをもてる美意識や道德感、価値観をもてるのは素晴らしいが、1年の哲学が難解すぎる。
- ・教科書の内容が中学生には難しいのではないかとすることがあります。もう少し、身近な内容の方が興味をもてると思います。
- ・地域の方や学校支援コーディネーターに協力をお願いして、茶道体験や着付け体験など本物に触れる機会や体験をなるべく多くしている。茶道や着付けなど大人になっても忙しいこともあり、なかなか習う割合は少ないが、中学校で多少でも学習することにより海外で活躍するときに、とても役に立つと思う。また、歌舞伎鑑賞教室も、将来海外の方と話をする中で、見たことがあるのとないのとでは大きな差があると思うのでありがたい。
- ・中学生にとって大切な要素を多く含む授業であると考えている。教師がどのような姿勢で取り組むかということが大事。

・全員で取り組み、活用したワークシート等を保管し、共有しています。指導資料集等活用できるものがありますが、1時間の授業準備に非常に時間がかかり負担が大きいです。生徒とともに学び、おもしろいと感じることもありますが、領域毎に専門の講師の先生が教えてくださると、生徒にとって学びが深まると思います。

・授業担当者の力量や意識に差があることが気になる。

・日常生活や他教科との兼ね合いのなかで、日本語の授業で行ったことを関連付けていく必要がある。

・我が国の伝統文化を学び、理解することはとても大事なことでと痛感しています。生活様式が西洋化し、日本文化に触れる機会が年々減ってきている昨今、学校でしか教えられないという状況が、ある意味悲しいし、危機も覚えています。歌舞伎も着物も、茶道も華道も、和食のマナーも知らない日本人が増えるのは本当に悲しい。せめて、こんなことを感じ、こんなことをやっていたのだと言う紹介だけでもと思い、授業を重ねています。

・内容は生徒にとって必要、有益であると思う。

・大変興味深い教材もあり、生徒が前向きに取り組めれば有形無形に指導の効果、影響が及んでいくものであると思います。問題はどうやって指導体制、協力体制をつくっていくか、また、教材研究に十分な時間をどう確保できるかだと思います。

・教師の専門分野外のことが多く、自信をもって指導できていない。

・継続するなら、十分な検証・検討を加え、当初の予定通り専門の講師をおくなど形を変更してやってほしい。

・「日本語」の教科書は実態と合わず難しい。他の教科で十分補える。

自由記述 9 小学校 保護者

- ・子どもは日本語の授業が楽しいと言っているのも、子どもたちが興味をもって楽しく学べるように工夫されているのだと思います。英語の学習もいいですが、その前に日本を大事にする教育をしてほしいです。
- ・日頃から和歌や論語などの暗唱に一生懸命取り組んでいてとてもよいと思いますが、当時の人物がそのような和歌などをどういった気持ちで込めて作ったのかなど、もう少し興味をもてる楽しい授業にしてほしいと思います。
- ・自分の好きな短歌を絵で表現すると言う授業もありました。自分なりに想像し言葉を絵にすることはより理解が深まり、興味をもてたのではないかと思います。
- ・日本語のもつ響きやことばのリズムなどに興味をもつことができるとよいと思います。漢詩や英語の文と比べるような機会があったらよいのではと感じます。鼻濁音、「ら」抜き言葉など、失われつつある日本語の特徴を教えてもらう時間も、ぜひつくっていただけたらと思います。
- ・若い子たちの日本語の使い方に疑問をもつことが多いので、正しい使い方、敬語、尊重語などを中心に勉強した方が実用的だと思います。
- ・児童に知ってほしい、感じてほしい「ことばの大切さ」をまとめてあるこの教科書は、進学しても家の机に立て、ふとしたときに開いてみるとよいと思いました。
- ・日本語を取り上げて学ぶということには賛成ですが、ただ音として覚えるだけの側面があり、意味や歴史背景にまで至らないのが残念な気がします。
- ・小さい頃から分からないなりに昔の言葉に接することもよい体験と思います。
- ・情景を思い浮かべたり、作者の思いを感じとったり、日本の言葉を大切によく知った上で、外国の言葉を学んでほしいと思います。
- ・知識としてはよいと思うが、学力向上にはつながらない授業という印象を受ける。
- ・自ら文字で表現する力も身に付けてほしいと思います。詩など書く機会ももっとあってもよいのではないのでしょうか。
- ・「ことば」の大切さを理解し、自分の心を互いに通わせ合うことができることを学ぶ大切な授業だと思っています。人を思いやり、自分に正直に生きる力も「ことば」から学んでほしいと考えています。
- ・日本語よりも、社会的課題に直結するディスカッションとか、ファシリテーション等、グローバル時代に必要な自分の頭で考えるようなコミュニケーション授業を展開してほしいです。
- ・大人も含めて言葉が乱れている中、世田谷区の小学校で「日本語」という教科を学ぶことができ、幸せな子どもたちだと思います。学校の公開授業では、難しい言葉を何度も声に出し、言えたときには、笑顔になっていました。その姿は、日本語を楽しんでいるように感じました。家庭でも、口から自然と言葉が出て、弟たちもそれを耳にして自然に大合唱になるときもあります。子どもの音読にとっても心が和みます。
- ・日本語の授業はよい取組だと思うが他にも優先度の高い授業があるように思う。
- ・論語、民話、漢詩、詩、短歌等幅広く、とても内容の深いものであり、「日本語」のもつ豊かさを改めて感じるができると思います。言葉を通して、表現することの大切さ、言葉のもつ意義を深く考える力などを養うことができると思います。

- ・明らかに子どもの日本文化に対する興味が増しており、素晴らしい授業だと思えます。これからも継続されるとよいと考えます。
- ・日本語を学んで感性が豊かになっていくという方針が理解できません。感性や教養ということを求めるのであれば、様々なジャンルの本を読むということを授業に取り入れることをしていけばよいと思えます。世界に目を向けて欲しいと願っている親とすれば、外国語に重きを置いてほしいです。まず、自国の日本語で自分の意見を言えるようにということであれば、ディベートを授業でやる等していけばよいと思えます。
- ・昔の和歌などもよいが、現代の日本語で自分の考え、気持ちを人に伝える力、文章に表す力を身に付けるような内容を取り入れてもらいたい。漢詩、論語なども入っており、「日本語」の授業の位置付けが、いまいち伝わってこない。
- ・背景や意味で理解していないので、暗唱だけに終わっているような気がしており、「日本語」の課題ではないかと感じております。
- ・先生の指導がマニュアル的だと感じた。何も解説のない教科書で、先生によって教え方に差が出るように思う。子どもたちは、詩や短歌のリズムを楽しんでいるように感じるので、とてもよい取組だと思うが、そこから先を求めるのであれば難しいと感じる。
- ・日本語の授業で学力が高まっているという印象はありませんが、教養として身に付けたいものはしっかり身に付いていると思えます。低学年のうちに俳句や詩など音のリズムを楽しめる作品に触れることで日本語の美しさ、表現の奥深さを感じることができると思えます。
- ・日本語の教科書に載せられている原文はどれもよく選択されていると思えます。低学年のうちは子どもたちも素直に暗唱したりして感動しました。高学年になると、文章も難しくなるし、低学年と違って素直に音を楽しむ子は減り、めんどろがってしまふ傾向があるように見えます。先生方の中にもどうしても日本語の分野に好き嫌いがあると思うので、好きな先生だと例えば和歌への愛を語って子どもたちを引っ張れますが、そうでない先生も、高学年に教えるための仕組みがあれば、なおよいと思えます。
- ・少し高度かなと思える文章や俳句、詩についても興味をもち、意味を尋ねてくるところを見ると、日本語に対する感性が確実に養われていると思えます。一方で、和歌、漢詩や論語については自身の年齢のせい、心情に共感するまではいかないようです。しかし、将来、再び触れる機会があれば深く感じ入ることができると期待しています。試験勉強としてではなく、味わいながら感性を磨き、教養を高めていく上で日本語の授業は重要だと思っています。
- ・母語の言葉を学んだり、昔の詩や俳句など普段触れる機会がないのでよいと思えますが、難しいだけに子どもたちの興味をそそるように授業をするのは先生の力量によるものだと思います。漢詩などは中学からでもよいと思えます。小学生のうちは、ことわざや四字熟語などの方を教えてもらいたいです。
- ・あまり意味を感じない。日本語発表等イベントはあるが、小学生にとって必要だと思えない。日本語より英語や政治について、また、論文や作文の方が重要に思えてならない。将来役に立つのはその方だと思う。また、理科的な実験や発想力を高める授業もよいと思う。

自由記述 10 中学校 保護者

・「日本語」の授業はとてもよい授業だと思うが、残念なことに、なぜ「日本語」の授業が大切なのか、子どもや保護者に伝わりきれていない気がする。国語の時間に学べないのか、国語との違いなど説明は受けていると思うが分かりにくい。先日「日本語」の公開授業に出席し、ことばの力の育成から日本人としての文化も学ぶということが分かった。日本人は自国文化や歴史など、他国に比べると理解が浅い。グローバル社会にあって、今後子どもたちは外国人と接する機会が多くなり、自国のことを理解していないと相手にされず、信用もされない。国際人の育成（英語）に目がいきがちだが、日本語の理解はそれ以上に必要と考えられる。ことばの力の育成と合わせ、自国に誇りを持ち、純粋な愛国心を育てられるような授業になることを期待している。

・自分の考えを表現することはとても重要だと思うので、よい取組だと思う。日本独特の文化を学ぶことは日本人としても大切であり、子どもが大人になった際に継承していくという意味でも大切だと思う。お互いの意見を出し合い、関係を構築することは、成長する上でとても大事だと思う。コミュニケーションをたくさんとり、ぶつかり、成長してほしいと思う。

・中学にあがって、日本語の教科書の内容が小学校の時とはかなり変わっていることに驚きました。国語の教科書とは違った視点から「日本語」について学べるのはとてもよいと思います。ただ、「日本語」の授業を学ぶことがただの時間つぶしにならないよう、工夫が必要ではないかと思います。

・日本語の授業を参観したことがあります、「道徳」のように思いました。「日本語」といってもその位置付けが分かりにくいように感じます。子どもたちに今必要なのはそのような授業なのか、他にもっと学ぶべきことがあるのではと思いました。ただ、「日本のことを知る授業」として外国人に伝えられるような日本の魅力を学ぶ場であるのなら将来役に立つときが来るのではないかと思います。

・小学校低学年の頃は教科書も見ていましたが、現在は見ることもなくなりました。今回記入するにあたり、教科書を確認しようと思いましたが、いつも学校に置いてあるとのことで残念でした。日本語の授業は国語の授業とは違った文章や言葉に触れ合える機会だと思うので、続けていく意義はあると思いました。

・百人一首の授業がとても楽しかったようで、一生懸命、百首を覚えてたくさんの札がとれるように頑張っていました。その他は、受け身の授業が多かったようなので、参加型の授業をもっと増やして積極的になる機会を作っていただけたらと思います。

・小学校の時から続く日本語の教育は無意味に等しい。古文や漢詩の音読も意味が分からず呪文のように唱えているだけ。教師も日本語の授業を適切に教えるような訓練を受けているわけでもない。世田谷が独自に行っているようだが、もう少し英語などためになることを行ってほしい。早く廃止すべき。

・子どもの年齢に見合った内容ではない。小学生での漢文は非常に難しすぎる。意味が理解できる子どもは少ないのでは。言葉の美しい響きが目的なら、国語の教科で十分。文章のチョイスは大事。中学校では、専任の先生がいないため、授業にならないような浅い内容の場合がある。国語、道徳、学活などでカバーできるのではないか。教科の目的と実態がそぐわず、10年経ってもなくならないのが疑問。

・子ども本人は、今は「日本語」の授業を通して学力が高まったり教養が身に付いたりということに関して「そう思う」とはいかないようですが、詩や和歌、漢詩や論語などを音読することは、とてもよいことで、将来何かの折りに思い出したり、役に立ったりすることがきっとあると思います。教科「日本語」これからも応援しています。

・これからの時代を生きる子どもには、特に海外へも目を向けてほしいと思っています。海外へ行かれた方の話を伺うと、日本から出たときにより一層日本を意識し、日本の文化、言語などを説明し、正しく理解してもらおう立場になると聞いています。授業を通じて普段の生活だけでは知り得ない日本について、様々な角度から学んでくれることを期待しています。

・自分の気持ちを表現し、文章にまとめる力を伸ばしてほしい。

・古典に触れることは中学以降の学習に役立つと思います。願わくば、現代の言葉遣いの乱れを正すためにも、「ら」抜き言葉、語尾を上げる発音、言葉の省略形を間違いであると認識できる内容をぜひ、取り上げていただきたいです。

・日常の子どもたちの言葉遣いを聞くと、とても悪いことが多い。日本語の授業を通して、言葉の使い方や人に感動などを与える力があることを学んで欲しい。

・「日本語」は日本人の基本であり、美しく正しい日本語を身に付けてもらいたいと思っています。百人一首や漢詩に興味はあるのですが、その意味を正しく理解できていないところが非常に残念です。もっと深く理解できるような授業をしていただけたらと思います。それゆえに教養として身に付いていないように思います。個人差はあると思いますが、我が子を見ている限りでは、語彙力・表現力が向上していないように思います。

・「日本語」の授業で具体的にどのような内容を学んでいるのか、よく理解はしていないが、宿題で課題は、調べたり、考えたりと真面目に取り組んでいる姿を目にします。他の教科以上に自分の意見や表現を発表する機会があり、自己表現の向上につながればよいと思います。

・詩や和歌、漢詩や論語等に触れるのも大事ですが、もっと身近な言葉の由来や意味、伝統文化と言葉、学校で学んだことを家でも「ねえ、知ってる？」と知識を得た喜びを感じてほしい。

・一人ひとりが和歌や漢詩などを読み書きすることも大切だと思いますが、子ども同士でそれらについて話し合うような授業がとても重要ではないかと考えます。

・本来は読書で知るべきだが、日本語のもつ幅広い近代の表現も内容として取り入れていただきたいです。国語の分野と接すると思いますが、表現の豊かさを伝えるには現代の子達には国語だけでは不足と感じます。

自由記述 1 1 卒業生

5) 心に残っている内容、調べたこと、好きや嫌いなところ

- ・歌舞伎の授業が一番印象に残っている。実際に観劇することで、さらに興味が湧いた。その後も、自分でも一回見に行くほど関心が高まった。授業だけでなく、実際に経験できることがあり、とても面白かった。(H25)
- ・あまり、面白さが分からず、正直、退屈に感じていた。(H24)
- ・小学校の授業は、漢文や詩を読むのが好きだったし、その意味について話し合ったりするのが楽しかった。中学校の授業では、文化等の話だったので、知っていることが多く、あまり楽しくなかった。(H25)
- ・「偶成」は今でも暗唱できる。(H25)
- ・日本語の授業が好きだったが、中学2年生での哲学だけはあまり好きではなかった。(H25)
- ・衣食住の授業の「食」、四季の詩などが好きだった。(H26)
- ・みそを作ったことが印象に残っている。(H27)
- ・着物の着付けや、自分で季節の俳句を作るなど、活動が多くて楽しかった。(H27)
- ・日本の伝統工芸品や、昔ながらの文化などを知る事ができ、少しの知識でも備わるのがよい。(H26)
- ・日本語の授業の内容自体、特別、苦ではなかったが、クラスの皆が発言しなくなると授業がおもしろくなかった。内容が難しかったのかとも思う。(H26)
- ・詩などを小学生のとき、音読し、宿題にも毎日出ていたことが心に残っている。(H26)
- ・歌舞伎を見たり、焼き物をつくるのは楽しかったが、特別おもしろくはなかった。日本の文化はよく知ることができた。(H27)
- ・自分の意見をみんなに発表するのが嫌だった。(H27)
- ・漢字で書かれた寿司のネタの旬についてゲーム感覚で学べたのが印象に残っている。(H27)
- ・日本人として知っておくべきことや物事の本質について深く考えたことが心に残っている。また、理解を深めるために、実際に体験したことがとても楽しく、興味をもつことができた。(H27)
- ・他人の自分と違う意見を聞くことができ、それについて話し合えるところが良かった。(H27)

6) 役に立っているところ

- ・塾で国語を教えるときに、授業で学んだ文章がテキストにのっている。(H23)
- ・古典の授業で小学校の日本語の授業で暗記した文学が出てくると役に立っていると感じる。(H25)
- ・日本語で相手に何かを伝えるときの言葉の選び方などが役に立つと感じた。(H25)
- ・小学校の時に、漢詩や孔子の言葉に触れることができたので、高校に入っても、古文、漢文が苦手になることなく、むしろ得意科目になった。読んだだけで、何となく意味が分かるようになった。(H25)
- ・調味料の特性が分かり、キューピー3分クッキングを見るのがより有意義なものになった。(H27)
- ・初めて聞いたり、見たものに対して、よく考えようとする、自分の考えをもつこと、また、その意見を発表する力がついたこと。(H26)
- ・意見を言う機会がよくあったので、自分の意見を言うと言うことに関して、自信がもて、意見が求められたときに、きちんと言えるようになったところは役に立ったと感じた。(H26)
- ・礼儀や作法で習った日本特有のマナー (H27)
- ・実際に授業で扱った内容をうまく生かしているかというところでもないが、他人の意見を聞き入れ、自分の意見を伝えるという作業においては訳に立っていると思う。(H27)
- ・自分の意見とかを、皆の前で積極的に言えるようになり、授業中の発言も増えた。(H27)
- ・普段の授業や生活では学べないことが日本語の授業で学ぶことができた。日本の伝統の良さや、今の現実の厳しさを知り、大切にしていきたいと思った。(H27)

◆ 教科「日本語」検証・検討委員会

堀 恵子	教育委員会教育長	委員長
児島 邦宏	東京学芸大学 名誉教授	学識経験者
廣川 加代子	新渡戸文化短期大学 教授	学識経験者
坂本 正彦	経堂小学校長	委員 小学校長会代表
稲葉 実	山崎小学校長	委員 小学校長会代表
吉村 実	赤堤小学校長	委員 小学校長会代表
小宮 豊	千歳台小学校長	委員 小学校長会代表
今田 敏弘	弦巻中学校長	委員 中学校長会代表
大倉 清子	奥沢中学校長	委員 中学校長会代表
直田 益明	芦花中学校長	委員 中学校長会代表
加藤 敏久	船橋希望中学校長	委員 中学校長会代表
島崎 智恵	認定こども園多聞幼稚園長	委員 幼稚園長会代表
岩本 康	教育次長	委員 教育次長
工藤 郁淳	教育政策部長	委員 教育政策部
齋藤 等	教育指導課長	委員 教育指導課
栗林 大輔	教育指導課統括指導主事	事務局 教育指導課
宇田川 裕美	教育指導課指導主事	事務局 教育指導課
来山 憲	教育指導課指導主事	事務局 教育指導課
亥ノ瀬 久美	教育指導課指導管理係長	事務局 教育指導課
深沢 和輝	教育指導課指導管理係主任主事	事務局 教育指導課

◆ 実態調査委託

株式会社ベネッセコーポレーション

平成28年度
教科「日本語」検証・検討委員会 報告書

編集・発行

世田谷区教育員会事務局教育指導課

〒154-8504 世田谷区世田谷4-21-27

Tel 03 (5432) 2703

Fax 03 (5432) 3041